

言語・文学委員会（第24期・第3回）議事要旨

1. 会議名 言語・文学委員会（第24期・第3回）
2. 開催日時 平成30年10月3日（水）12時00分～13時30分
3. 開催場所 日本学術会議1階ロビー
4. 出席者 松浦純（委員長）、吉田和彦（幹事）、渡部泰明（同）
5. 議事概要
 - ①前回、平成30年4月3日（火）に開催された第2回言語・文学委員会の議事要旨を確認した。
 - ②4分科会のこのかんの活動について報告があった。

古典文化と言語分科会：
平成30年7月30日（月）、慶應義塾大学にて第3回分科会を行った。倉員正江委員が「江戸代の往来物に見る古典教材について」、安藤宏委員が「高等学校国語教科書（現代文）の現状と課題」と題する研究発表を行ない、その内容を踏まえて討議を行なった。また、哲学委員会「古典精神と未来社会」分科会から、今後の活動の連携について打診があったことを踏まえ、当委員会としてはその可能性を探ることとした。

文化の邂逅と言語分科会
平成30年4月29日（日）、東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟にて第2回分科会を開催し、平成32年度以降の入試制度（英語）について討議した。参考人として、東京大学の阿部公彦、南風原朝和両氏にご出席いただき、平成32年度以降の入試制度（英語）について討議した。これについては、問題の緊急性に鑑み、例外的に詳細な議事録を作成・公開し、一般へも向けた情報提供・討議材料とした。（<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/bunya/gengo/pdf/bunka-yoshi2402.pdf>）。

科学と日本語分科会：
平成30年4月7日（土）、東京大学駒場キャンパスにおいて第2回「科学と日本語」分科会を開催し、主に手話言語に係る現状と課題について、ゲストスピーカーとして市田泰弘（国立障害者リハビリテーションセンター学院）、木村晴美（同）、小野広祐（明晴学園）、手話通訳者2名を招聘し、手話言語に係る現状と課題に関する報告を行い、そのあと意見交換を行なった。

平成30年7月14日（土）、東京大学駒場キャンパスにおいて第3回「科学と日本語」分科会を開催し、手話言語に係る現状と課題について、金水委員が大阪大学における手話に関する授業の紹介を行い、そのあと意見交換を行なった。

人文学の国際化と日本語分科会：
平成30年9月29日、東京大学本郷キャンパスにおいて第2回分科会を開催し

た。以前、翻訳院構想についての提言案を作成した西村清和氏（前期会員）を迎え、その内容について説明を受けたうえで、今後の方針について協議した。

③②の報告を踏まえて、今後の各分科会の活動予定について審議を行った。

④松浦会員が平成31年8月末をもって定年退職を迎えることから、後任候補について情報交換を行なった。